

# 2023年度 地域連携室事業報告書



## 目次

### 大谷大学の地域連携プロジェクトについて

- ・地域連携室について
- ・コミュラボについて

### 地域連携プロジェクトの紹介

- 1 中川学区の暮らし再発見プロジェクト
- 2 コミュニティメディアプロジェクト
- 3 聞き取りを通じた共生社会推進 プロジェクト(左京)
- 4 まちの居場所
- 5 南丹市美山町平屋地区と大谷大学の学生との交流活動
- 6 網野町海浜漂着プラスチックの 調査・清掃活動
- 7 山間地域の持続可能な地域づくり支援(柚子)
- 8 WA(わ) のこころ創生プロジェクト
- 9 自治会応援プロジェクト
- 10 祇園祭ごみゼロ大作戦
- 11 北部福祉フィールドワーク
- 12 子ども・子育て支援プロジェクト
- 13 地域交通とモビリティプロジェクト
- 14 スマホ教室

### Topics

地域連携プロジェクト交流会

## 大谷大学の地域連携活動

子育て支援、コミュニティラジオなどでの情報発信、過疎地域の活性化、環境に配慮した祇園祭の実施への協力など正課授業と関連した地域連携活動を行っています。それらを「地域連携プロジェクト」として位置づけ、学部・学科の垣根を超えて全学的な社会貢献や地域連携の取り組みとして展開しています。



### 地域連携室

大谷大学では、地域連携室を設置し、地域に開かれた大学として学びを通じた社会貢献や地域連携活動を支援しています。2022年度からはじまる第2次中長期プラン「グランドビジョン130」において、地域連携室は社会連携部門の中心と位置付けられ、学内外の関係諸機関と連携し、これまで以上に全学的な取り組みとなるよう進めていきます。

※地域連携室は、文学部社会学科地域政策学コースの開設準備室を母体として、学外でのフィールドワークやPBL型授業の実施を支援するために2015年6月に設置されました

### コミュ・ラボ

コミュ・ラボは、「コミュニティ」と「コミュニケーション」を軸に社会とのつながりを考え、地域と連携した社会的活動の実践を通して学び成長する学内の拠点です。学生が行動力や課題解決力を養い、地域とつながる活動の場として、活動支援や情報発信を行っています。



## 地域連携プロジェクトの紹介

大谷大学では「地域連携室（コミュ・ラボ）」を設置し、伝統いぎづく住民力と学生の協働で、過疎地域の活性化、子育て支援、コミュニティラジオなどでの情報発信、環境に配慮した祭りの実施協力などの地域連携活動に取り組んでいます。

大学近隣の団体と連携し、正課授業などと連動して実施する「地域連携プロジェクト」は、大学認証評価（公益財団法人大学基準協会、2022年度）において高い評価をいただいています。



中川学区の暮らし再発見プロジェクト

実施エリア:京都市北区中川学区  
連携団体:中川社会福祉協議会(北区) 社会福祉法人菊鉾会ヒーローズ(上京区)



コミュニティメディアプロジェクト

実施エリア:京都市北区  
連携団体:NPO法人コミュニティラジオ 京都市(北区)



聞き取りを通じた共生社会推進プロジェクト(左京)

実施エリア:京都市左京区  
連携団体:京都市左京東部・西部いきいき市民活動センター(指定管理者 NPO法人劇研)



まちの居場所

実施エリア:①京都市北区、②京田辺市  
連携団体:①社会福祉法人七野会(北区)



南丹市美山町平屋地区と大谷大学の学生との交流活動

実施エリア:南丹市美山町平屋地区  
連携団体:美山町平屋地区地域福祉推進協議会(南丹市)、南丹市社会福祉協議会(南丹市)



網野町海浜漂着プラスチックの調査・清掃活動

実施エリア:京丹後市網野町  
連携団体:網野町地域おこし協力隊(京丹後市)、京丹後市夢まち創り大学(事務局:京丹後市役所)



山間地域の持続可能な地域づくり支援(柚子)

実施エリア:京都市右京区水尾学区  
連携団体:水尾学区自治会、水尾特産品加工組合(右京区)



WA(わ)のこころ創生プロジェクト

実施エリア:京都市北区  
連携団体:WAのこころ創生ネットワーク会議(事務局:北区役所)



自治会応援プロジェクト

実施エリア:京都市北区紫竹学区  
連携団体:紫竹学区自治連合会(北区)



祇園祭ごみゼロ大作戦

実施エリア:京都市中京区、下京区(祇園祭山鉾町周辺)  
連携団体:一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦(下京区)



京都府北部福祉フィールドワーク

実施エリア:京都府北部の自治体(京丹後市、与謝野町など)  
連携団体:京都府



子ども・子育て支援

実施エリア:京都市  
連携団体:京都市楽只保育所(北区)ほか



地域交通とモビリティプロジェクト

実施エリア:京丹後市(京都府)  
連携団体:京丹後市夢まち創り大学(事務局:京丹後市役所)ほか

地域連携プロジェクト

# 中川学区の暮らし再発見プロジェクト

## プロジェクト概要

本プロジェクトは、2014年から活動が始まり、2015年度からは中川社会福祉協議会との連携事業として進めています。

中川学区は、大学と同じ京都市北区にありながら京都市北部の山間地域に位置しています。学区は、中川・杉阪・真弓という3地区からなっています。川端康成の『古都』にも登場する歴史ある地域であり、古くから「北山杉」として知られる林業で栄えてきた町です。しかし今では、住宅建築様式の変化などにより、中心だった林業は衰退しています。さらに少子高齢化、人口減少が進み、商店や金融などは撤退。最寄りの病院やスーパーまでは、山道を車で30分以上

かけて行かねばなりません。公共交通機関であるバスは中川集落にのみ停留所があり、杉阪と真弓の集落にはバスは通っていません。自家用車中心の生活であるため、車が運転できない人によっては外出が困難な状況となっています。

一見すると「暮らしていくのは大変そう...」ととらえがちですが、決して大変だけでなく、そこにはかけがえのない地域の人たちが紡いできた自然の風土や文化、地域行事などへの思い、住民同士の助け合う風土など、これまで作りあげてきた歴史や暮らしの文化があります。



本学では、このプロジェクトを通して、地域に暮らす人々の思いを大切に、地域の抱えている課題や、地域のこれからのことを共に考えていきたいと思っています。また、地域に残る伝統や文化の積極的な発信、地域の資源を活用した新たな生活文化を創造するきっかけづくりなどにも取り組んでいきたいと思って活動をしています。山間の地域での暮らしのお話は驚くこともたくさんあります。何度も地域を訪ね、お話を伺い、さまざまな活動を共有する中で、暮らしを知り、そしてともに考えるという経験につながっていると感じています。

### 【プロジェクト情報】

活動エリア	京都市北区（中川学区）
連携団体	中川社会福祉協議会（北区） 社会福祉法人菊鉾会ヒーローズ（上京区）
連動科目（正課）	社会学部コミュニティデザイン学科 プロジェクト研究実践

### 採択実績

公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
「学まちコラボ事業」認定事業  
(令和5年度・令和4年度・令和3年度)

## 活動報告

中川での大谷大学の活動も9年目を迎えました。これまで継続して行っている福祉サロン「健康ふれあいクラブ」への参加、「まんまびーア！」づくりのほか、地域活動の様子や四季折々の地域の風景などの写真や動画をSNSで発信する活動、生活実態の調査（2015年～2017年）、夏祭りなどの地域行事への参加などを進めてきました。今年度は原点に立ち返り、中川の暮らしとまんま茶についての知識を深め、それを住民の方々に共有できるよう、魅力を再発見することを目的として活動しました。新型コロナウイルス感染やインフルエンザの影響による活動停止の懸念は、完全に払拭されたわけではありませんが、活動としてはコロナ禍前の状況に戻り本格的に交流を再開しています。

### ●健康ふれあいクラブ（福祉サロン）

中川社会福祉協議会が毎月1回実施している「健康ふれあいクラブ」に参加。参加者である学区の高齢者、さらには行事を実施する中川社会福祉協議会のメンバーの方、関係機関の方々との交流を通じて中川の暮らしの実態を多角的に把握する活動を行っています。学生は各回のサロンに参加するだけでなく、学生企画として年に数回その場の仕切りを任せ、主体的に交流の場づくりも行っています。

### ●中川産茶葉の活用

真弓地区で行う「and house.」の活動では、地元住民有志の方が進めてこられた、地元で昔から栽培されてきたお茶の復活プロジェクトに参加。2019年度からは社会福祉法人菊鉾会の醸造部門ヒーローズと連携し、中川産茶葉を使用したクラフトビール「京都・中川まんまびーア！」の製造販売にも取り組みました。今年、「まんまびーア！」に使用する茶葉の収穫を新芽の時期に実施しました。また、地域の歴史や産業を知るため、中川学区とゆかりの深く日本最古の茶園がある高山寺を取材。京都北山杉の里総合センターでは、北山杉や北山丸太の説明を受けました。学生は現地活動や地域の方との交流を通じて地域の理解を深める機会となっています。



### 担当教員



### 志藤 修史 教授

社会学部コミュニティデザイン学科

#### 専門分野:

社会福祉学(地域福祉論/社会福祉援助技術論)

#### 研究領域・テーマ:

地域福祉/ボランティア・市民活動/社会保障/まちづくり

地域連携プロジェクト

# コミュニティメディアプロジェクト

## プロジェクト概要

大学が所在する北区や北大路周辺が主な活動エリアです。この地域に暮らす人たちの行動範囲の拡大や人と人との交流がより活発になることをめざして、地域で活躍する人の姿や地域の企業、団体、イベントなどを伝えるメディアづくりを行っています。

北大路エリアは、タウン情報誌などのメディア掲載が市内中心部の京都駅や烏丸、河原町エリアに比べて少ない地域です。また北区であっても上賀茂神社、金閣寺など観光地であれば周辺地域の情報として旅行雑誌などでも取り上げられますが、北大路駅周辺は北区の中心地域でありながらメディア露出が少ないのが現状です。こうした地域課題のなか、学生が地域に密着した情報を取材し、発信に取り組むのがこのプロジェクトです。



メインの対象層は、この地域で暮らす、働く、学ぶ若い世代です。この地域での生活歴が少なく、地域の情報を求めている層にインターネット等を通じて情報を届け、人やお店とのつながりづくりを促します。学生は取り組みを通じて、地域に埋もれていた面白いお店やイベント情報を知ること、地域の人との暮らしや仕事の面白さ、大変さなどを知ること、また、情報端末やメディア機器を使っての情報発信スキルや、対人コミュニケーションのスキル向上を図ることを目指しています。様々な活動と連携し、地域の面白い若者や大人とのつながりが生まれたほか、学生は地域の人たちの様々な生き方、働き方に刺激を受けています。



### 【プロジェクト情報】

活動エリア 京都市北区（大学周辺）  
 連携団体 NPO法人ラジオミックス京都  
 新町商店街、新大宮商店街  
 むらさきスタイルプロジェクトほか  
 連動科目 社会学部コミュニティデザイン学科  
 （正課）プロジェクト研究実践

### プロジェクトSNSにて積極発信



## 活動報告

(1) コミュニティラジオ番組「大谷大学ハッピーアワー！」運営  
 ラジオ番組「大谷大学ハッピーアワー！」を毎週19時から50分間の番組を放送。年間50回程度放送し、2016年に番組を開始し、現在では放送400回を超えました。学生がラジオMCや音響ミキサーを担い、地域の商店主やNPOスタッフなど多数の方にゲストとして登場いただいています。



(2) 地域PR動画制作

新大宮商店街を中心とする紫竹・紫野界隈「むらさきエリア」の地域ブランディング、活性化に取り組む地域団体「むらさきスタイルプロジェクト」と連携し、この地域の事業者紹介の動画制作を行いました。

### (2)地域PR動画制作

・新大宮商店街を中心とする紫竹・紫野界隈「むらさきエリア」の地域ブランディング、活性化に取り組む地域団体「むらさきスタイルプロジェクト」と連携し、この地域の事業者紹介の動画制作を行った。

- ・2023年度は、
- ①マグカップ用注ぎ口製造の「Rappo-Kyoto」（らっぽきょうと）
- ②絵本カフェ「mebae」（めばえ）
- ③子ども服店「音」（おん）



(3)商店街の認知度アップにむけたinstagram運営  
 「これまで商店街に縁のない人たちなどへの認知アップのための広報活動」についての協力の相談を受け、公式instagramを開設し、投稿する記事の取材とSNS運営を行いました。

### (3)新町商店街 公式instagram運営

・2023年度は、「村上牛乳店」「京都かめよし北山labo」「キダサービス」「富田屋製麺所」「喜むら呉服店」「マルモザイコ」「YOUYOU館」等取材。instagramにて発信。



(4) 地域イベント企画・運営

賑わいづくりや交流の機会づくりのためのイベント「新町商店街ほんわかフェス」を新たに企画。備品の手配から、広報、当日運営など、一連のイベント企画運営を活動をゼロから立ち上げました。新町商店街内の3店舗の駐車スペースをお借りして、ゴム銃射的、駄菓子屋、わたしがし、こたつでトーク、昔なつかしい遊びのコーナーなど、子どもから大人まで楽しめるイベントを行いました。



### 担当教員



赤澤 清孝 准教授

社会学部コミュニティデザイン学科

専門分野:

経営学士、政策科学修士

研究領域・テーマ:

ローカルメディア／コミュニティラジオ／パブリックリレーションズ(PR)

## 地域連携プロジェクト

## 聞き取りを通じた共生社会推進プロジェクト

## プロジェクト概要

地域連携パートナーの京都市左京西部・東部いきいき市民活動センター（以下、いきセン）と共に、学生たちが聞き取りを中心とした社会調査（フィールドワーク）を行い、地域住民や出身者、関係者らが直面している問題や、共生社会をめざす上での地域社会の課題について考えます。



調査先の地域では、アートやイベントを通じて多様な人々を結びつけるための、積極的な試みがなされています。いきセンは、市民サークル等への貸館事業を営みながら、地域住民や外国にルーツを持つ人々等への聞き取り活動を行い、また演劇・音楽・ダンスといったアート活動を通じて、人々の交流を促す仕掛けを実践しています。盆踊りや夏祭りといったイベントの企画・運営など、地域内外の若者や外国からの移住者も含め、バリエーションに富んだ人々の交流を生み出す機会を提供しています。

学生たちは、いきセンの活動に自らも参加することで、地域の方々と交流し地域貢献をなしつつ、地域社会および市民活動の現状と課題についての理解を深めます。また他方で、自分たちで立案した社会調査を実践することで、調査倫理やコミュニケーション能力を含む応用的な調査スキルを身につけます。

さらにそれを年度末の報告書へとまとめていく作業の中で、調査データをどう取り扱い、社会的な見地からいかに考察していくかに関する実践的な理解を深めていきます。調査結果をまとめた報告書は、いきセンおよび調査にご協力いただいた地域の方々にお渡しして、地域社会へのフィードバックがなされます。

## 【プロジェクト情報】

活動エリア 京都市左京区  
 連携団体 京都市左京西部・東部いきいき市民活動センター  
 （指定管理者：NPO法人劇研）  
 連動科目 社会学部現代社会学科  
 （正課） 探求フィールドワーク

## 活動報告

本年度は新型コロナウイルスの感染防止に十分注意しながら、前後期ともほぼ例年通りのスケジュールで調査を実施することができました。

4月：いきセンの概要、地域の特徴、公営住宅建て替え事業の進行状況などについて東部いきセンで説明を受けました。

5月：いきセンが実施するワークショップに参加

6-7月：地域住民のふだんの食生活や外食先、お買い物の行き先などについて聞き取りを行いました



後期：前期の聞き取り内容などをもとに、学生の気付きやいきセンの意向を受け、「食文化班」「生活行動班」「コミュニティ班」の3つのグループに分かれて、それぞれに調べたい内容を検討。そのうえで、いきセンのご協力を得て、11月上旬に聞き取り調査を実施しました。

また、10月26日には本学において講演会を行い、講師の方から当地の歴史や暮らしぶりなどについて講演いただき、地域の出来事や人間関係などを深く学ぶ機会となりました。

なお、これらの聞き取り調査の成果を12月以降に、『探究フィールドワーク報告書』にまとめました。



担当教員代表

**徳田 剛 准教授**

社会学部現代社会学科

専門分野：

【地域社会学／社会学理論／宗教社会学／専門社会調査士】

研究領域・テーマ：

よそ者(ストレンジャー)と地域コミュニティ／よそ者(ストレンジャー)と地域コミュニティ／人口減少地域に立地する仏教寺院のあり方

地域連携プロジェクト

# まちの居場所プロジェクト

## プロジェクト概要

まちの居場所づくりプロジェクトでは地域の社会福祉施設の皆さんと協働しながら、地域の居場所づくりを進めています。いま地域福祉実践の場面では、「地域共生社会」がひとつのキーワードとなっています。そして、多様な背景を持つ人々が関係を紡ぐ「居場所」づくりも盛んに取り組まれています。ここで目指されるのは地域に暮らす誰もが、ともにケアしあいながら、気づきあいながら生きる社会です。どのような状況にあっても、住みなれた地域で、自分らしく暮らし続けるためには、保健、医療、介護のサービスだけではなく「居場所」や「つながり」の活動が必要となるのではないかと考えます。そしてこれは誰か特別な人に限ったことではなく、子どもも大人も、障害のある人も、ない人も、地域に暮らすすべての人にとって「あったらいいな」と言える場所・活動なのではないでしょうか。そこで、このプロジェクトでは、住民団体や地域を支える専門機関、大学とが連携をして、学区で暮らす誰もが参加できる「場」と「活動」をつくり、地域やまちづくりに貢献することを目指しています。この活動を通じて、地域で今後さらに大切となると考えられる「人と人とのつながり」や、さまざまな立場におかれた人の「居場所」の今日的なあり方について実践を通じて考えていきたいと思っています。



【プロジェクト情報】

活動エリア 京都市北区（金閣学区原谷地区）  
 連携団体 社会福祉法人七野会  
 連動科目 社会学部コミュニティデザイン学科  
 （正課） プロジェクト研究実践

## 活動報告

社会福祉法人七野会の皆さん、京都市北区金閣学区の皆さんと一緒に「原谷の子どもカフェ」事業に取り組みました。これは、金閣学区原谷地区で月1回開催している子ども食堂プロジェクトです。日頃は高齢者への福祉サービスを提供する七野会が子どもカフェの場を提供し、障害者就労支援事業に取り組むカフェレストラン「ソラシド」と地域の金閣福祉会の皆さんが食事を提供し運営しています。コロナ禍では実施可能な形態を試行錯誤しながら活動してきました。2023年度はコロナが5類に移行したことも鑑みて、子どもたちへの飲食の提供を再開したり、施設の中でのレクリエーション活動の内容が増えたりと従前の形にまた少し戻すことができました。人と人との交流が制限されていた時間を取り戻すべく、活発に交流しています。この子どもカフェは活動を始めて6年ほどになります。毎回欠かさず参加してくれる子どもたちとはお互いに近況を報告し合うような関係も築くことができました。これからも地域に必要とされるまちの居場所のあり方を考えていきたいと思っています。



担当教員



大原ゆい 准教授

社会学部コミュニティデザイン学科

専門分野:

社会福祉学(地域福祉論/社会福祉援助技術論)

研究領域・テーマ:

地域福祉/ケア・ケアラー支援/NPO・ボランティア

地域連携プロジェクト

# 南丹市美山町平屋地区と大谷大学の学生との交流活動

## プロジェクト概要

本プロジェクトでは、人口減少、高齢化の進む南丹市美山町平屋地区を対象に、生活実態と生活課題および住民による地域福祉活動を学ぶことを目的としています。受け入れていただいているのは平屋地区地域福祉推進協議会、南丹市社会福祉協議会の皆様です。

主な活動内容としては、学生による高齢者宅等への訪問活動、平屋地区の高齢者との交流を目的とした「ふれあいカフェ」の開催、また、2018年度からは住民の外出・移動に関する調査、さらに2020年度からは買い物支援のために平屋地区地域福祉推進協議会が実施している「お出かけツアー」登録者へのアンケート調査などの調査研究を行っています。

こうした活動は、過疎地域における具体的な課題から学ぶ機会となり、各自の個人研究レポートや卒業論文につながっています。



【プロジェクト情報】

活動エリア 南丹市美山町平屋地区

連携団体 美山町平屋地区地域福祉推進協議会(南丹市)  
南丹市社会福祉協議会(南丹市)

連動科目 社会学部コミュニティデザイン学科  
(正課) プロジェクト研究実践

採択実績

「南丹市学校提案型まちづくり活動交付金」採択事業  
(令和5年度・令和4年度・令和3年度)

## 活動報告

平屋地区の住民活動は、常に誰もが集まれる、楽しめる、交流できるという基本を大切にしておられ、「お出かけツアー」や集落サロンなど地域住民の力として実施し、また南丹市社協もその活動を支援しています。

コロナ禍では人的交流や外出機会が減ってしまいました。新型コロナウイルスの感染が5類に移行して以降は、学生企画の実施をきっかけにした地域福祉活動の再開など新たなチャレンジを試みました。

感染状況を見ながら再開されてきたサロンもありましたが、全ての集落でのサロンが復活したわけではなく、休止のままとなっている集落もあります。今年度は、学生の持ち込み企画のクイズなどのゲームや学生との交流を通じて、集落サロン再開への働きかけ、あるいは継続しているサロンとの交流を実施しました。

開催されたサロンでは、食事やゲームを通して交流を深めました。また大谷大学の学生企画は都道府県ビンゴとクイズなどの企画を進めました。また、参加したサロンでは参加者の方にアンケートを実施し、集落サロンの現状や課題を調査しました。本プロジェクトでは、地域の連携先とともに活動し、住民福祉の支援をつづけています。学生にとっては地域における住民の福祉活動を実際に学ぶ機会となっています。

美山町での活動の様子は別途、報告書としてまとめています。閲覧を希望される方は、地域連携室までお問い合わせください。



担当教員



**志藤 修史 教授**

社会学部コミュニティデザイン学科

専門分野:

社会福祉学(地域福祉論/社会福祉援助技術論)

研究領域・テーマ:

地域福祉/ボランティア・市民活動/社会保障/まちづくり

地域連携プロジェクト

# 網野町海浜漂着プラスチックの調査・清掃活動

## プロジェクト概要

海を漂うプラスチックごみは、世界規模で進行する深刻な環境汚染問題として、国際的に関心が高まるとともに、その除去の方策に向けた基礎研究が進められています。

日本では、とくに日本海側の海岸において冬の季節風で掃き寄せられた大量のプラスチックごみが漂着し、大きな問題になっています。京都府京丹後市網野町の海岸においても、大量のプラスチックごみが漂着し、波に洗われることで細粒化し海浜砂にまみれています。



網野町には琴引浜という鳴砂の浜が広がっており、綺麗に磨かれた砂がキュッキュと音を立てます。しかしごみの混入で砂が汚染されると、鳴かなくなってしまったといえます。琴引浜は名勝地であり天然記念物に指定されているため、地元の人びとの努力で積極的に清掃が進められてきました。しかし、それ以外の浜では大量のごみが放置されたままです。細粒化したプラスチックは海へ戻って浮遊し、魚が飲み込みます。

プラスチックは有機化合物を吸着しやすいため、生態系に影響を与え、魚を食べた人の体内にも蓄積する可能性があります。これらの地域課題・環境問題を解決するにあたって、海岸の清掃活動を行うとともに基礎調査を実施し、課題解決に向けた具体的方策を検討することを目的としています。



## 採択実績

京丹後市「夢まち創り大学」採択事業（2019年～継続）

京都知恵産業創造の森「地域連携事業」採択事業（2023年度・2024年度）

### 【プロジェクト情報】

活動エリア 京丹後市網野町  
 連携団体 網野町地域おこし協力隊（京丹後市）  
 京丹後市夢まち創り大学（事務局：京丹後市役所）  
 連動科目 社会学部コミュニティデザイン学科  
 （正課）プロジェクト研究実践

## 活動報告

新型コロナウイルスの感染対策の変更により、4年ぶりに宿泊を伴う活動を行うことができました。京丹後市夢まち創り大学や京都知恵産業創造の森の支援を得ながら、網野町地域おこし協力隊の八隅孝治氏と（株）ジオ研究開発の榎本氏の協力もいただき、現地で活動することができました。

現地では、ビーチクリーン活動だけでなく、課題解決に向けた筋道をつけることを目的に継続的な基礎調査活動を行っています。現地での活動経験は、学生たちにとって実践的な学びの機会となっています。



### 【本年度実施した主な調査や活動】

- 1) 琴引浜における海浜砂中におけるマイクロプラスチック調査
- 2) 小浜における海浜漂着ゴミの国籍由来調査
- 3) 小浜における海浜砂中に散在するマイクロプラスチックの除去方法の検討および実証実験（除去装置開発）
- 4) 魚の内臓中に含まれるプラスチック類の調査



### 担当教員



### 鈴木寿志 教授

社会学部コミュニティデザイン学科

専門分野：

【文化地質学】

研究領域・テーマ：

地質文化／古生物／地層／環境問題

地域連携プロジェクト

# 山間地域の持続可能な地域づくり支援(柚子)

## プロジェクト概要

活動地域である水尾地区は、嵐山から西へ10km弱、車で30分の場所にありながらも愛宕山の中腹に位置し、交通や生活が不便なため限界集落となっています。

日本の柚子栽培発祥の地として有名な地域ですが、担い手不足に悩まされています。高齢化による集落の衰退と基幹産業である柚子栽培の維持が課題です。地域では住民有志が加工所を新設し、地域の将来をかけて柚子を活かした活性化を行っています。学生は、地域の活力になれるようにと、地域活性の活動に参加し、連携を深めていきます。



水尾地域の生業や高齢化に起因する複合的な地域課題の理解や解決に向けて、地域と連携して活動を行っています。地域が求める活動と、学生視点による地域課題の解決に向けた活動です。地域活性化の取り組みとして、実施しているフジバカマの保全育成活動や、花が見頃を迎えるありがとうございます。10月に実施する「フジバカマ鑑賞会」のイベント支援を行っています。



### 【プロジェクト情報】

活動エリア 京都市右京区（水尾学区）  
 連携団体 水尾学区自治会（右京区）  
 水尾特産品加工組合（右京区）  
 連動科目 社会学部コミュニティデザイン学科  
 （正課）プロジェクト研究実践

### これまでの採択実績

右京区まちづくり支援制度  
 （令和4年度・令和3年度）

## 活動報告

水尾地域の生業や高齢化に起因する複合的な地域課題の理解や解決に向けて、地域と連携して活動を行っています。地域が求める活動と、学生視点による地域課題の解決に向けた活動です。地域活性化の取り組みとして、実施しているフジバカマの保全育成活動や、花が見頃を迎える10月に実施する「フジバカマ鑑賞会」のイベント支援を行っています。



特産品である柚子を使った交流事業「柚子しぼりボランティア」では、毎年他の一般ボランティアと協力し、担い手が不足する水尾地域の活性化の取り組みを支援しています。2022年・2023年には、地域が主体となって実施した「京都・里山 親子でめぐる伝統文化体験事業～京の食文化を支える柚子しぼり・加工体験～」の運営支援を行うとともに、学生は当日参加した親子と水尾住民とをつなぐ役割を担いました。水尾で柚子栽培を手伝っている若者や、水尾で活動する他大学の団体とSNSで繋がり、意見交換を行うなど、ヨソモノの力を結集し地域の活力を下支えできるよう活動の展開を支援しています。



柚子による活性化の先進地域である和歌山県古座川町平井地区などでもフィールドワークを行っています。平井地区での活動は、新型コロナウイルスの感染拡大による活動自粛した2020年以降の訪問になりました。久々の再開に地元の方からも笑顔がこぼれました。



### 担当教員



### 鈴木寿志 教授

社会学部コミュニティデザイン学科

専門分野:

【文化地質学】

研究領域・テーマ:

地質文化／古生物／地層／環境問題

## 地域連携プロジェクト

## WAのこころ創生プロジェクト

## プロジェクト概要

北区の4大学（大谷大学、京都産業大学、佛教大学、立命館大学）と、伝統文化の担い手や寺社、北区役所が連携して、「WA（わ）のこころ創生ネットワーク会議」を組織し、自然への深い感謝の念や繊細なおもてなしの精神など日本人が大切に、受け継いできた日本のこころを次世代に継承する取り組みを進めています。本学は、構成団体の一員として、文化事業を通じて、北区民の暮らしに文化が息づく「こころの創生」の実現に貢献しています。

プロジェクトの取り組みとして、2022年度から本学学生が北区内の“WA”をテーマとして映像を製作しています。

なお、事業名の「WA」は、「和」「輪」「わ」など、解釈の仕方で創造性が広がるよう、あえてアルファベット表記となっています。



## 活動報告



プロジェクトのモットである「自然への深い感謝の念や繊細なおもてなしの精神など日本人が大切に受け継いできた日本の心を次世代に継承していく」に則り、(1) 学生の視点から、北区の魅力を伝える、(2) 「魅力」の紹介に留まらず日本人特有の精神文化や価値観といった「WAのこころ」とは何かを問題提起する作品をつくるという方針で映像制作を企画しています。

本年度は、5月に上賀茂神社にて執り行われた「足汰式（あしぞろえしき）」と、大谷大学博物館企画展に展示された「賀茂競馬図屏風」の解説を撮影し、映像を製作しました。

京都市公式YouTubeチャンネルからご覧いただけます。



## 【プロジェクト情報】

活動エリア	京都市北区
連携団体	京都市北区役所 WAのこころ創生プロジェクト
連動科目 (正課)	社会学部コミュニティデザイン学科 プロジェクト研究実践

## 担当教員



## 松川 節 教授

社会学部コミュニティデザイン学科

専門分野:

博士(文学)

研究領域・テーマ:

モンゴル研究／東洋史／人文情報学

# 自治会応援プロジェクト

## プロジェクト概要

地域住民にとって身近な組織である自治会の取り組みについての現状と課題を、実際の自治会活動の行う取り組みに参加することを通じて学ぶことを目的としたプロジェクトです。

近年自治会・町内会については加入・未加入をめぐる様々な状況、考え方や判断があること、あるいは活動の内容についても形骸化、行政の下請け化が進むなどの指摘があります。一方で、地域での身近な横のつながりを担うことができる、加えて、平時はもとより災害などの場合に相互の助け合いの機能を発揮できるなどの期待もされています。

このプロジェクトでは京都市北区紫竹学区をフィールドに、紫竹学区自治連合会と連携し、自治連合会が実施する活動に参加することを通じて、地域における自治会組織の役割や機能、加入・未加入などのジレンマの現状などを把握し、そこから地域の住民同士の関係性と集団組織の方向性などを探っていきます。



## 活動報告

本学では紫竹学区と連携した取り組みを深めています。2016年度には、京都市北区の進める「まちづくり学区ビジョン」作成のプロジェクトに取り組みました。また2020年度には学区自治連合会で取り組まれた町内会長向けアンケートの分析や分析結果に基づくワークショップなどを実施しました。

2022年度からは紫竹学区の自治会活動を応援するプロジェクトとしてスタートすることとしました。紫竹まつりや紫竹ルネサンスなど学区のイベントへ参加し、イベント準備を行うとともに、大谷大学学生ブースを設け、子どもたちなど地域の方々との交流を行いました。また、地域の方が気軽にふらっと立ち寄れるサロン活動「カフェふらっと紫竹」にも継続的に参加し、交流を深めています。

### 【プロジェクト情報】

活動エリア	京都市北区（紫竹学区）
連携団体	紫竹学区自治連合会ほか（北区）
連動科目 （正課）	社会学部コミュニティデザイン学科 プロジェクト研究実践

### 担当教員



### 志藤 修史 教授

社会学部コミュニティデザイン学科

専門分野：

社会福祉学（地域福祉論／社会福祉援助技術論）

研究領域・テーマ：

地域福祉／ボランティア・市民活動／社会保障／まちづくり

# 祇園祭ごみゼロ大作戦

## プロジェクト概要

世界有数の伝統祭事である祇園祭。祭の山場となる山鉾巡行前の宵山行事期間中は、多くの夜店・屋台が四条烏丸を中心に広範囲で立ち並び、国内外から多くの来場者が訪れます。来場者数に比例して課題となるのが、食べ歩きなどで出されるプラスチック容器などのゴミ問題です。祇園祭宵山のゴミ問題を解決するために「祇園祭ごみゼロ大作戦」を2014年にNPOや行政、夜店や屋台、ごみ収集事業者などの協力のもと活動がはじまりました。

山鉾町内に設けたエコステーションで、リユース食器の回収やごみの分別の呼びかけを行い、屋台や夜店などから発生する食べ歩きのゴミの減量に取り組んでいます。学生たちは、活動全体への貢献を経て、様々な立場の人たちがひとつの目的に向けて協力し実行することの意義を実感する機会となっています。



### 【プロジェクト情報】

活動エリア 京都市中京区、下京区（鉾町周辺）  
 連携団体 一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦  
 連動科目 人間学Ⅱ－9（全学部対象）  
 （正課）

## 活動報告

7月15日（土）、7月16日（日）に実施された「祇園祭ごみゼロ大作戦2023」が無事に終了しました。今回の活動には、本学からボランティア136名、ボランティア活動のまとめ役となるリーダー5名、計141名の学生が参加しました。

本学の学生たちは主として夕方から晩のシフトに入り、宵々山・宵山が最もにぎわう時間帯の取り組みを支えました。全学部から学生の参加があり、山鉾町内に設けられたエコステーションを拠点として、リユース食器の回収や、資源ごみ分別の呼びかけに汗を流しました。

活動後、参加学生からは、「すべてのごみを燃えるごみに入れようとする方もいて、リユース食器をもっと多くの人に知ってもらう必要があると感じた」といった感想がありました。

また、「分別を手早く行えるよう、あらかじめごみを捨てようとするお客さんの手元を見て、すぐさま捨てる場所を伝えられるように心がけた」、「昨年度もボランティアに参加したが、今回はより積極的にお客さんへの声掛けをすることができた」という声もあり、多くの学生が意欲的に参加し達成感を得た活動となりました。



### 担当教員



**赤澤 清孝 准教授**

社会学部コミュニティデザイン学科

専門分野：

経営学士、政策科学修士

研究領域・テーマ：

ローカルメディア／コミュニティラジオ／パブリックリレーションズ(PR)

# 子ども子育て支援プロジェクト

## プロジェクト概要

子育て世帯がたくさん暮らす住宅街という側面を持つ北区。京都市及び北区は子育て政策として、子育て中の保護者の不安や疑問を解消し、地域で孤立しないよう、地域の人たちとの仲間づくりや交流活動を推進しています。大谷大学教育学部教育学科幼児教育コースではこれらを将来保育士や幼稚園教諭など、保育者を目指している学生たちの実践的な学びの機会—とくに近年保育者として必要とされている子育て支援・保護者支援の実践力を身につける学びの機会—として捉え、またそれが同時に地域貢献を実現する試みとしてプロジェクトに取り組んでいます。

## 活動報告

地域全体での子育て力の向上をめざし、大学の専門性や保育学生の実践による地域での役割を果たすため、未就園児を持つ保護者など子育て中の親子等を支援する活動を実施する。専門教員の指導のもと保育学生が子どもの相手をする中で、子育て中の保護者につかの間の休息を与えるだけでなく、保護者は会場に同席している保育士などの専門家や他の保護者と対話する時間になっています。

・「あかちゃんにこちゃんサロン」

北区の「地域子育て支援ステーション」である紫明幼稚園・のぞみ保育園と連携し、子育て相談や子育て講座・園庭開放等に取り組んでいます

・赤ちゃんの「いないいないばあ」教室（0歳児教室）

京都市子育て支援事業の北区の拠点園である京都市立楽只（らくし）保育所と共同で実施しています。学生が参加された子育て中の親子と交流する場をもち、学生の学びにつなげています。

他にも地域と連携した子育て支援活動を行っています。



### 【プロジェクト情報】

活動エリア	京都市北区
連携団体	京都市楽只保育所ほか（北区）
連動科目（正課）	おおたにキャンパス演習ほか

### 担当教員(代表者)



## 富岡 量秀 教授

教育学部教育学科幼児教育コース

専門分野:

社会福祉学(地域福祉論／社会福祉援助技術論)

研究領域・テーマ:

真宗保育／幼児教育学／保育内容・環境／環境デザイン

## 地域連携プロジェクト

京都府

# 北部福祉フィールドワーク

## プロジェクト概要

本プロジェクトは、京都府北部地域で多様な地域実践を展開している自治体において、地域を基盤としたソーシャルワークの実践を学ぶことを目的としたフィールドワークです。京丹後市や福知山市、与謝野町など京都府北部の福祉施設などと連携し実施しています。新型コロナウイルスなど感染対策については、受入施設と協議の上、状況を考慮しながら実施しています。



## 活動報告

京都府北部の福祉施設や行政の福祉担当部署を訪問し交流を行うとともに、北部の福祉の現状を学びました。支援を必要としている当事者の生活背景を知り、地域や施設の特性に根ざした実践の豊かさを学ぶ機会となっています。本フィールドワークをきっかけに北部地域で就職することを決意した学生もあり、学生の学びに大きな影響を与えています。



### 【プロジェクト情報】

活動エリア 京都府北部  
連携団体 京都府北部の自治体 や福祉施設  
(京丹後市、与謝野町、福知山市など)  
連動科目 社会学部コミュニティデザイン学科  
(正課外)



### 担当教員



### 中野 加奈子 教授

社会学部コミュニティデザイン学科

専門分野:

社会福祉学(社会福祉援助技術論/貧困問題/医療福祉/生活史研究)

研究領域・テーマ:

ソーシャルワーク/生活史アプローチ/ホームレス問題

地域連携プロジェクト

# 地域交通とモビリティプロジェクト

## プロジェクト概要

### なぜ地域交通をテーマとするのか？



このプロジェクトは、高齢化社会やクルマ社会に伴う移動手段の課題を明確化し、特に地方部では生活の足となっている自家用車への過度な依存を見直し、地域全体で持続可能な交通のあり方について考えることを目的に、京都府京丹後市においてフィールドワークを実施しています。地域交通や買い物アクセスをテーマに地域での生活課題を発見し、解決に取り組む実践から学び、現場に提案・提言していくことを目指すプロジェクトです。

### 【活動背景】

慢性的な運転手不足によるバス路線の縮小廃止や交通事業者の経営環境の悪化など全国的に公共交通の維持が難しくなっています。活動先のひとつである京丹後市では、市内運賃が誰でも乗車1回あたり上限200円で利用できる「上限200円バス」事業のほか、エリア内で定額乗り放題の交通サービス「mobi」や、自家用有償旅客運送「ささえ合い交通」（公共ライドシェア）など交通ニーズにあわせ多様な公共交通が導入されています。一方で、市内在住者の通勤・通学の主な交通手段は依然として「自動車」が77%を占め、バスや鉄道を利用している人は全体のわずか6%に過ぎません。生活者に寄りそった持続可能な地域公共交通のあり方について考えます。

### 対象地域の特徴



### 【プロジェクト情報】

活動エリア 京丹後市

連携団体 NPO法人 気張る！ふるさと丹後町（京丹後市）  
つねよし百貨店（京丹後市）ほか

連動科目 社会学部コミュニティデザイン学科  
（正課）プロジェクト研究実践

### 採択実績（本年度）

- ・「大学・学生とともにのばす京都プロジェクト共同事業補助金」京都府
- ・京丹後市「まちづくり大学」採択事業

## 活動報告

学生は買い物や通院など日常生活の移動に困っている方々、政策や実践に関わる人々など実際に現場で話を聞き、課題を探っています。課題解決に向けた糸口となるよう政策提言だけにとどまらず、住民との交流を通じて自分事として課題に向き合っています。

京丹後市をフィールドとして、4つのテーマに分かれて活動を実施しています。現地活動やインタビュー調査など、フィールドワークに基づく提言や地域への還元をめざしています。

フィールドワークに基づく提言：

- ・共同研究論文の執筆
- ・政策研究交流会への参加
- ・地域関係者向け報告会

### 2023年度のプロジェクト活動のスケジュール



### 本プロジェクトを構成するチーム

テーマ（チーム名）	キーワード	研究対象	活動地域	明らかにしたいこと
① 交通政策（政策チーム）	地域公共交通政策 活性化再生法	地方自治体	京都府北部地域（京丹後市のほか、一部舞鶴市等？）	地域公共交通政策の抱える課題と目指すべき方向性とは？
② 共助交通（共助チーム）	自家用有償運送 互助・共助輸送	NPO法人 住民ドライバー 利用登録者	京丹後市丹後町など	支え合いによる交通はいつまで持続可能になるか？
③ 新モビリティ（モビリティチーム）	MaaS（マース） AIオンデマンド交通	地方自治体 交通事業者	京丹後市峰山・大宮地域など	新たなモビリティは地方部での生活にいかになじむか？
④ 買い物アクセス（買い物チーム）	買い物弱者 小さな拠点 移動販売等	民間事業者 社会福祉協議会 地域住民	京丹後市大宮町 南丹市美山町など	買い物弱者問題の実態とその解決策とは何か？

### ① 交通政策チーム

- ・プレ調査（6月実施）  
鉄道・バス・mobi・ささえ合い交通に乗車  
各公共交通機関の現状把握
- ・ヒアリング（8月実施）  
京丹後市の公共交通担当者にインタビュー  
政策提言に繋がるヒントや、新しい交通手段に対する市の考えなど



### ② 共助交通チーム

- 丹後町フィールドワーク
  - ・ささえ合い交通に乗車
  - ・ドライバーへのヒアリング
  - ・その他の交通機関への乗車
- NPOへのヒアリング
  - ・NPO法人 気張る！ふるさと丹後町・専務理事 東様へのヒアリング



### ③ モビリティチーム

- ・フィールドワーク実施（6月）：京丹後市でAIオンデマンド交通“mobi”の試乗
- ・フィールドワーク実施（8月）：mobiの運転手や学生への聞き取り調査
- ・mobiを運営するCommunity Mobility株式会社にオンラインにてヒアリング調査（11月）



### ④ 買い物アクセスチーム

- ・つねよし百貨店への訪問
- ・常吉地区の人へのヒアリング、常吉地区の子どもたちとの交流
- ・子ども百貨店の開催：常吉地区の子どもたちが主役となって百貨店を運営するイベント



## 成果報告

「第19回京都から発信する政策研究交流大会」での成果発表（主催：公益財団法人 大学コンソーシアム京都）



4チームすべてが本選に出場。実際にフィールドでの活動を通じて学んだことを、チームのテーマに沿った政策提言として発表



「令和5年度 学生とともにのぼす京都プロジェクト 成果報告会」（主催：京都府）

京都府の「学生とともにのぼす京都プロジェクト共同事業」に採択された17大学31チームを代表して、プロジェクトのチームが壇上報告を実施。地域交通とモビリティプロジェクトのチームを含む4チームが発表を行いました。また、作成したポスター掲示を前に、京都府知事に活動内容と地域課題を直接報告しました。



### 担当教員



### 野村 実 講師

社会学部コミュニティデザイン学科

専門分野:

社会学(地域社会学/地域政策)

研究領域・テーマ:

モビリティ/まちづくり/地域交通政策/コミュニティ

# 「地域連携プロジェクト交流会2023」

プロジェクト活動を行っている学生の1年間の活動報告と交流の場として、「地域連携プロジェクト交流会」を毎年実施しています。

本年度は1月23日（火）、本学響流館ギャラリーおよびコミュ・ラボを会場に「地域連携プロジェクト交流会2023」を開催し、10プロジェクトから44名の参加がありました。「子ども食堂の取り組み」や「水流を用いたマイクロプラスチックの回収」を行うプロジェクトの発表の後、グループワークで学部学科を超えて交流しました。

学生は、活動の苦労や楽しさを分かち合うだけでなく、自分たちの取り組みの活動意義や地域課題などを振り返り、学びを深める場となりました。

## 参加学生の声

- ・普段はプロジェクトごとに分かれて活動しているため、他の活動を知り、意見交換できてよかった
- ・活動内容は異なっても大切にしていることは共通している
- ・調査で同じインタビュー手法をとっていても、プロジェクトが異なると、気を付けるポイントも違っていて、とても参考になった
- ・もっと地域の役に立てる存在になりたい

プロジェクト活動を行う学生同士の交流による気付きや、今後の活動へのヒントを得て、地域連携プロジェクトが目指す「学生の主体的な学びの実践」を総括する機会となりました。

